

平成30年度第3回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

1 再評価実施事業の審議

① 101 森林管理道整備事業 御岳山2号線

委員：費用対効果の便益において、山地保全便益が突出して大きいが普通なのか。

事業課：山地保全便益は、山腹の崩壊や土砂の流出を防ぐ働きを評価しており、割合が高いのは通常のことである。

○対応方針（案）について

会長：継続する対応方針案でよろしいか。

委員：異議なし。

② 202 道路改築事業 一般国道254号（和光富士見バイパス）

委員：別紙1、「様式1の4.環境」について、SPM排出削減率の根拠の欄にNO_xと記載があるが、SPMの誤りか。

また、記載の数値が正しいのか。

事業課：NO_xの記載はSPMの誤りであるため、修正する。

数値については誤りはない。

委員：歩道が広いと、沿道環境は良いと考えるが、維持管理はどのように行っていくのか。

事業課：地元市と連携しながら適切に行っていく。

委員：地域住民の方に配慮した道路整備を進めてほしい。

事業課：了解した。

○対応方針（案）について

会長：継続する対応方針案でよろしいか。

委員：異議なし。

③ 203 道路改築事業 一般国道407号（鶴ヶ島日高バイパス）

委員：現地調査の際も現道が混雑しており、早期に完成させた方が良い。

事業課：了解した。

委員：非常に重要な道路であるので、引き続き事業を進めてほしい。

事業課：了解した。

○対応方針（案）について

会長：継続する対応方針案でよろしいか。

委員：異議なし。

④ 204 道路改築事業 一般県道久喜西線（下高柳・上高柳バイパス）

事業課：B/Cについて、前回の委員会で示した値に誤りがあったため、再計算した結果に修正している。

（前回：3.10→今回：3.06）

委員：B/Cが3を超えているが、要因は何か。

事業課：物件の少ない所を通してしているので、補償費に係るコストを低く抑えられていることである。

○対応方針（案）について

会 長：継続する対応方針案でよろしいか。

委 員：異議なし。

⑤ 205 道路改築事業 一般県道西金野井春日部線（新川工区）

○対応方針（案）について

会 長：継続する対応方針案でよろしいか。

委 員：異議なし。

⑥ 206 道路改築事業 一般県道蓮田杉戸線（黒浜バイパス）

事業課：B/Cについて、前回の委員会で示した値に誤りがあったため、再計算した結果に修正している。

（前回：2.20→今回：2.15）

委 員：埋蔵文化財調査の進捗はどれくらいか。

事業課：現在のところ、調査は60%完了している。

委 員：残りの調査の見込みはどのようか。

事業課：本路線周辺が一連の包蔵地になっており、用地買収したところの試掘は済んでいるが、今後も埋蔵文化財が発掘される可能性はある。

委 員：埋蔵文化財が出るか出ないかは調査を進めていかないと分からないということか。

事業課：その通りである。

委 員：都市計画の変更を数回行っているが、何を変更したのか。

事業課：他路線との平面交差箇所の変更や、東北自動車道との立体交差部分の変更等を行っている。

委 員：変更によってコストは増えたのか。

事業課：立体にしたり、幅員を拡げたりするとコスト増につながるが、本区間において、大きなコスト増となるような変更はない。

○対応方針（案）について

会 長：継続する対応方針案でよろしいか。

委 員：異議なし。

⑦ 207 道路改築事業 主要地方道羽生外野栗橋線（桑崎工区）

事業課：B/Cについて、前回の委員会で示した値に誤りがあったため、再計算した結果に修正している。

（前回：1.06→今回：1.09）

○対応方針（案）について

会 長：継続する対応方針案でよろしいか。

委 員：異議なし。

⑧ 208 街路整備事業 都市計画道路環状1号線

委員：今回の事業区間の北側の未整備箇所について、小川町の市街地を環状に迂回する道路として、ネットワークの観点から整備が必要になると考える。
事業課：小川町からは、事業区間延伸についての整備要望がある。今後、事業主体や整備のあり方について、町とともに検討していく。

○対応方針（案）について

会長：継続する対応方針案でよろしいか。
委員：異議なし。

⑨ 209 道路改築事業 一般国道125号（加須羽生バイパス）

委員：「周辺地域状況の変化」の済生会栗橋病院の移転について、平成33年1月開設予定との記載があるが、「204久喜騎西線」の資料では平成33年10月とある。どちらが正しいのか。
事業課：正しくは平成33年10月であるので、資料を修正する。

委員：神戸陸橋は現在も供用しているのか。
事業課：暫定2車線で供用している。本事業では、神戸陸橋についても4車線となる。なお、用地については取得済みである。

委員：国道122号との重用区間はなぜ6車線化するのか。
事業課：国道122号は4車線で供用しており、本路線の4車線と合流することで、重用区間の交通量は非常に多くなるため、6車線化が必要となる。

⑩ 210 街路整備事業 都市計画道路日光東京線（本町工区）

委員：費用対効果分析で、「平成27年度道路交通センサス現況交通量及び平成22年度道路交通センサス将来OD表（関東版）を使用して推計した将来交通量を用い」と記述してあるが、他の事業には「平成22年度道路交通センサス現況交通量」を用いているという記述がある。この記述は正しいのか。
事業課：「平成27年度道路交通センサス現況交通量」ではなく、「平成22年度道路交通センサス現況交通量」を使用するため、資料を修正する。

委員：平面交差で右折帯を設置することのだが、ラウンドアバウトで整備することは検討しなかったのか。
事業課：交通量が多いため、ラウンドアバウトでは交通渋滞を解消することができないと考えている。

2 事前評価実施事業の審議

① 401 三郷流山橋有料道路事業 主要地方道 越谷流山線（三郷流山橋有料道路）

委員：B/Cの計算で使うCについては、埼玉県の事業費ではなく全体の事業費か。
事業課：全体の事業費170億円が対象となっている。

委員：資料4の様式-3の費用対効果分析中では、Cが160億円とあるが、170億の間違いではないか。
事業課：全体事業費は170億円であるが、B/Cを求める際のCには、工事費に含まれる消費税額と有料道路事業に含まれる公社事務費を差し引いた160億円を使用している。

○対応方針（案）について

会長：平成30年度の新規事業箇所とする対応方針案でよろしいか。
委員：異議なし。

3 事後評価実施事業の審議

① 2001 道路改築事業 一般国道299号（飯能日高バイパス）

委員：再評価時点から事業費が約5%増加しているが、他事業も同様に増加することが多いのか。

事業課：近年人件費が増加傾向にあるため、同様に増加することが多い。

委員：開通後にバイパスと現道の交差点付近で事故が発生しているが、新道の開通による形状の変化に不慣れなため発生したものか。

事業課：新道が開通する際には、警察と協議のうえ安全面に十分配慮しているが、利用者が慣れるまでは事故が発生することはある。

委員：なぜ開通前と開通後で交通量が減っているのか。

事業課：開通前は、事業区間直近の平成27年度センサスの交通量を用いているが、開通後は、事業区間内の現道とバイパスで調査し、合計している。現道の調査地点の前の交差点で市道等へ流れていく交通があり、捕捉されておらず、それにより数値に差異がでていると思われる。

会長：本件については、委員会として報告を受けたものだが、特段の参考意見はなしとする。